

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(三大石油会社の業績比較:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/ExxonShellBp.html>)

(石油:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/oil.html>)

マイライブラリー:0257

(注)本稿は 2013 年 3 月 11 日と 12 日の 2 回にわたり「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.3.13

前田 高行

三大国際石油企業 2012 年度業績速報シリーズ(3)

II. Shell の業績

(注)詳細は下記同社 HP 参照。

<http://www.shell.com/global/aboutshell/media/news-and-media-releases/2013/q4-2012-results-new-site-31012013.html>

(利益の 4 割はアフリカ・中東・CIS の上流部門)

1. 2012 年の売上・利益・投資及び生産量

(1)売上高

Shell の 2012 年 1-12 月の売上高は 481,700 百万ドルであり、前年度の売上 484,489 百万ドルに比べ 0.6%の減収であった。

(2)利益(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93dShell.pdf> 参照)

利益は 26,592 百万ドルで日本円に換算すると約 2.4 兆円であり、前年(30,918 百万ドル) に比べると 14%の減益であった。後述するように生産量は殆ど横這いであったにもかかわらず利益の落ち込み幅が売上の減少(上記参照)を大きく上回ったのは原油の年間平均価格が前年に比べて低かったためである。

利益の内訳を上流部門(原油生産)と下流部門(石油精製販売及び化学品)に分け、さらに上流部門を地域別に分けて比較すると、上流部門の利益が全体の 79%を占め、下流部門の利益は石油製品が 15%、化学品が 6%であった。上流部門の利益を地域別に見ると最も利益が多かったのはアフリカ・中東・CIS の 9,846 百万ドルであり、利益全体の 39%を占めている。同地域に次いで欧州及びアジア・大洋州がほぼ同じ 48 億ドルで並んでいる。北米・南米の上流部門の利益は 512 百万ドルであり、利益全体のわずか 2%を占めるにすぎない。

(3)設備及び探鉱投資

2012 年度の投資総額は 32,576 百万ドルである。投資を上流部門、下流部門およびその他部門に分けると、上流部門には全体の 86%を占める 27,930 百万ドルが配分されている。下流部門は 4,433 百万ドル

(全体の 14%)であり、その他部門は殆ど投資していない。

(4)石油・天然ガスの生産量

2012年の生産量は石油が一日当たり平均163万バレル(以下B/D)であり、天然ガスは日産94億立方フィート(以下億cf)である。天然ガスを石油に換算し石油と合計した場合は326万B/Dに達する。ShellではこのほかLNGを年間2,020万トン販売している。

石油生産量を地域別にみると、最も多いのは中東・北アフリカの441千B/D(全体の27%)であり、次いで米国222千B/D(13%)、欧州219千B/D(13%)である。ExxonMobilの場合はアフリカとアジア大洋州で全生産量の60%を占めているのに対し、Shellの原油生産は全世界に分布している。

一方天然ガスについては欧州が33億cfと全体の35%に達する。これに次ぐのがアジア・大洋州(22億cf)であり、この両地域で全生産量の6割弱を占めている。

(売上と利益は石油価格次第、生産量に関係なし)

2. 2008～2012年の業績推移

(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93cShell.pdf> 参照)

2008年から2012年までの過去5年間の売上、利益、設備投資及び生産量は以下の通りであった。

(1) 売上高

2008年に4,709億ドルであったShellの売上は2009年には2,851億ドルに急減したがその後は再び増加に転じ、2010年は3,782億ドル、2011年には4,845億ドルに達し2008年の水準を上回った。2012年もほぼ前年並みの4,817億ドルであった。

後述するとおりShellの石油・天然ガスの販売量は過去5年間さほど大きな変動はなかった。従ってこの間の売上増減の最大の理由は、石油価格の急騰と急落によるものである。すなわち2008年から2009年にかけては石油・天然ガスの合計生産量は325万B/Dから315万B/Dへ3%減少したが、売上高は40%も減少している。それに対して2009年と2010年を比べると生産量が5%増加したのに対し売上高は33%増加しており、いずれの場合も売上は生産の増減幅を上回っているのである。

さらに2011年は生産量が対前年比で3%減少しているにもかかわらず売上高は54%と大幅に増加しており、逆に2012年は生産量は前年比1.5%増加したが売上高は0.6%減少している。このように売上高と利益と生産量は相互の関連性が乏しく、売上と利益の変動は石油価格によるものである。

(2) 利益

Shellの利益は2008年の263億ドルから2009年には125億ドルに半減した。その後利益は急回復し、2010年には200億ドル台を回復、2011年には過去最高の309億ドルに達した。2012年は前年比14%減の266億ドルであった。

これを売上高利益率で見ると2008年は5.6%であったが、その後も2009年4.4%、2010年5.3%、2011年6.4%、2012年5.5%と安定した利益率を達成している。但しメジャートップのExxonMobilと比べた場合、ExxonMobilの利益率は2008年9.5%、2010年7.9%、2012年9.3%と高い水準を誇っておりShellの利益率はExxonMobilの6割前後に留まっている。

(3) 設備及び探鉱投資額

投資額は2008年351億ドル、2009年265億ドル、2010年269億ドルであり、いずれもその年の利益

額を上回っている。2011年、2012年の投資額はそれぞれ263億ドル、326億ドルであった。なお投資に占める上流部門の比率は2008年は83%でありそれ以降2011年までは80%前後であった。2012年は過去5年間では最高の86%に達している。

(4) 生産量(石油及び天然ガスの合計生産量)

Shellの2008年の石油と天然ガスの合計生産量は325万B/Dであった。その後は2009年314万B/D、2010年331万B/D、2011年322万B/D、2012年326万B/Dであり毎年の生産量に大きな変化は無い。

石油と天然ガスそれぞれの生産量の推移を見ると、石油生産量は2008年の177万B/Dをピークに2008年168万B/D → 2009年171万B/D → 2011年167万B/D → 2012年163万B/Dとここ数年は低落傾向にある。これに対して天然ガスの生産量は86億立法フィート(2008年) → 85億立法フィート(2009年) → 93億立法フィート(2010年) → 90億立法フィート(2011年) → 94億立法フィート(2012年)と増加の傾向を示している。

ShellはLNGの販売量も公表しており2008年の1,305万トンが2012年には2,020万トンと5年間で1.5倍に増加している。同社は近年天然ガスの生産とLNG販売に力を注いでいると言えよう。

(Shell編 完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp